



ニュースレター

第45号

NPO法人 日本リハビリテーション看護学会

事務局案内

住 所 〒187-0041
東京都小平市美園町1-6-1-307
NPO法人
日本リハビリテーション看護学会事務局
交 通 新宿駅から西武新宿線にて小平駅下車徒歩2分
電話番号 042(346)7226 FAX 042(313)2050
E-mail jrna@nifty.com <http://www.jrna.or.jp/>



かまくら



伊豆の河津桜



理事長 あいさつ

人口減少時代、地域包括ケアを推進するリハビリテーション看護

理事長 荒木 暁子

人口減少時代、障害、慢性疾患のある人や高齢者が健康寿命を延伸し、その人らしくよりQOLの高い地域生活を送るためには、生活機能を維持・改善していくことが重要です。地域包括ケアの概念と地域リハビリテーションの概念は、ますます重なってきています。

地域リハビリテーションは「障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立

場から協力し合って行なう活動のすべてを言う（日本リハビリテーション病院・施設協会、2016）」と、あらゆる発達段階の人々を対象として再定義されました。

本学会はリハビリテーション医療の臨床現場で働く会員が多く、看護師以外の職種も複数所属しています。今後は、地域・在宅領域の専門職と積極的に連携をとり、リハビリテーション看護からますます発信していきたいと思えます。

学識経験者も含め新理事体制となり、まだまだ力不足ではありますが、次の世代へつなげる活動を推進してまいります。



第28回 日本リハビリテーション看護学会学術大会

テーマ：リハビリテーション看護の新たな挑戦 - Passion & Challenge -

平成28年11月26日・27日（土・日）の両日、沖縄県名護市にある公立大学法人名桜大学で金城利雄教授（当会前副理事長）を大会長に学術大会が開催された。参加者は380名、演題発表は82題、協賛企業は29社であった。

1日目は、開会式に続いて元沖縄県看護協会会長の備瀬信子先生の特別講演があり、「沖縄県におけるリハビリテーション看護の歩み～戦後から復帰まで～」のテーマで占領下時代の先進的な看護教育・看護実践の様子や病床数が少ないことで早期退院が促進され、訪問看護の先駆けとなる看護活動が実践されていた様子など熱く語られた。優秀演題の発表に続いて、午後は藤田保険衛星大学七栗記念病院病院長、園田茂先生の「リハビリテーション看護への期待」というテーマのご講演をいただいた。別会場では交流集会在開催され、「摂食嚥下における多職種連携と地域連携の現状と課題」「子どものリハビリテーション看護」のテーマで看護職の意見交換が活発に行われ、また、市民公開講座では名桜大学玉井なおみ准教授による「がんと運動」の講演が行われた。



元沖縄県看護協会会長備瀬信子先生



沖縄の民族舞踊

2日目は、東北大学出江紳一教授による講演「患者エンパワーメントに活かすコーチング」を始めとして、シンポジウム「身体疾患を有する認知症患者のリハビリテーションの現状と課題」やランチョンセミナー2題、国際リハビリテーション看護研究会との交流集会等が開催された。

今回は、著名な先生方の講演や沖縄ならではの講演など盛りだくさんの学術大会となった。1日目の夜には2007年九州沖縄サミットの会場にもなった「万国津梁館」で懇親会が開催された。古式ゆかしい沖縄舞踊や獅子舞、カチャーシーなどワクワクドキドキする時間を過ごし、みな笑顔で語り合えた一時であった。

広島市立リハビリテーション病院 増岡 薫子



サミット会場になった万国津梁館



特別
講演

第28回学術大会

「リハビリテーション看護への期待」

講師 藤田保険衛生大学七栗記念病院 病院長 園田 茂 先生



園田先生は「リハ看護の守備範囲は不動・ADL・心理・嚥下など多岐に関わる。看護師は医学に強く、24時間、患者や家族に近い存在である。その強みを生かし、基本的な知識習得（リハ全体の基本となる運動学習の概念も踏まえ）から、リハを主体とする看護師に必要なスキルを階層化・標準化し、専門性を明確にする教育の確立が望まれる」また、「チーム医療における組織横断的な協業の姿勢、他職種の世界を知る努力が必要。プレイングマネージャとしての役割がある」とリハ看護の発展への期待を語られた。

これからの高齢化社会の中で、リハビリテーションのニーズは高い。その一端を担う「リハ看護」も進化しなければならぬ。と考えさせられた講演だった。

前湯布院病院看護部長 梅尾さやか

患者エンパワーメントに活かすコーチング

東北大学大学院医工学研究科 研究科長 出江 紳一先生

出江先生は「医療者のとるコミュニケーションが、患者自身による疾病管理を改善できる」という事を分かりやすく説明された。コーチングの基本的スキルとして、傾聴は意図的に注意を向けて相手の話を聞くこと。承認は相手がすでに出来ていることに注意を向けそれを伝えること。質問は相手が自分でも気付かなかった欲求・強み・能力を持っていることに気づくための理解であり「人」にフォーカスすること。提案は相手へ課題の新たなとらえ方を提示して考えてもらうことである。

日常のケアの中でコーチングを必要とする場面は数多くある。コーチングというコミュニケーションを、看護師はもちろん、最も患者の身近に存在する介護士も身につけ、患者エンパワーメントを活かしていけるようになりたいと強く思った。

総合リハビリテーション伊予病院 宇野みどり

リハビリテーション・サミット2016を終えて

全国リハビリテーション医療関連団体協議会では、“地域包括ケアシステムの構築”の推進に寄与するための教育・啓発を目的に昨年初めてリハビリテーション・サミットを開催し、今年度は10月29日、茨城県のつくば国際会議場にて「切り札は介護予防！～住民主体の地域リハビリテーション～」をテーマに開催された。（参加者数1,054名）

はじめに茨城県健康プラザの管理者の大田仁史先生から、「シルバーリハビリ体操指導士養成事業の現状と展望」と題し、10年間の活動実績のご紹介の中で“住民が住民を育てる”として体操普及の効果と地域リハビリテーションについてお話いただいた。同県の利根町と守谷市のシルバーリハビリ体操1級指導士の方々による実践報告では、地域での活動状況や体操指導士会の立ち上げから今後の展望などについて、力強く熱く語られた。そして全国における事業展開の事例として、福島県いわき市と広島県尾道市の行政の方々による実践報告では、シルバーリハビリ体操指導士と行政、病院、各団体等が協働した活動によるまちづくりへの実績と今後の展望として、大きな期待をもって話された。また体操の実演では、体操補助ロボット『二代目たいぞう』君と一緒に会場の参加者が一斉に体を動かし、笑顔と会場が揺れる躍動感に包まれた。介護予防と住民主体というキーワードとともに、10年後に向けたまちづくりについて、地域リハビリテーションへの期待がさらに高まるでしょう。



体操の様子

白山リハビリテーション病院 板倉 喜子



お知らせ 第29回 NPO 法人日本リハビリテーション看護学会学術大会

テーマ：その人らしく生きるを支える

2017年11月10日・11日の両日、NPO 法人日本リハビリテーション看護学会学術大会が東京都千代田区日経ホールで開催されます。大会長は東京都リハビリテーション病院竹下礼子看護部長です。現在、特別講演・教育講演などプログラム検討中です。10日夜には懇談会も予定されています。皆さんお誘いあわせの上ご参加ください。



【NPO 法人日本リハビリテーション看護学会 役員一覧】

(任期 平成28年10月1日～平成30年9月30日)

名 誉 会 長	氏 名	勤 務 先	
	落合芙美子		

顧 問	氏 名	勤 務 先	
	林 淑子		

役 職	氏 名	勤 務 先	役 職 名		
	理 事 長 副 理 事 長 書 記 会 計 北 海 道 東 北 関 東 近 畿 中 国 四 国 九 州 沖 縄 監 事 指 名 委 員 事 務 局	荒木 暁子	千葉県千葉リハビリテーションセンター	看 護 局 長	
板倉 喜子		白山リハビリテーション病院	副 院 長・ 看 護 部 長		
			栗生田友子	国立障害者リハビリテーションセンター病院	看 護 部 長
原 三紀子		東京女子医科大学看護学部	准 教 授		
			佐藤 啓子	埼玉県総合リハビリテーションセンター	看 護 部 長
中川美都子		富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	看 護 局 長		
			佐々木郁子	神奈川県リハビリテーション病院	看 護 局 長
荒 紀恵子		クラーク病院	看 護 部 長		
			熊谷 恒子	東北公済病院	看 護 部 長
蟻田富士子		東京都リハビリテーション病院	看 護 科 長 補 佐		
			石川ふみよ	上智大学総合人間科学部看護学科	教 授
上田美代子		森之宮病院	副 看 護 部 長		
			高濱 正子	兵庫県立リハビリテーション中央病院	看 護 部 次 長
増岡 薫子		広島市立リハビリテーション病院	総 看 護 師 長		
			宇野みどり	総合リハビリテーション伊予病院	看 護 部 長
金山萬紀子		誠愛リハビリテーション病院	副 院 長		
			佐藤 史	JCHO 湯布院病院	看 護 師 長・ 地 域 医 療 部 関 連 室 室 長
			山本 恵子	九州看護福祉大学看護福祉学研究科	教 授
北代 直美		NPO 法人日本リハビリテーション看護学会			
	田村 玉美		人間総合科学大学保健医療学部看護学科	教 授	
横山真由美	千葉県千葉リハビリテーションセンター	看 護 師 長			
		仁科 聖子	順天堂大学保健看護学部高齢者看護学	准 教 授	
落合由香理	NPO 法人日本リハビリテーション看護学会	事 務 局 長			

施設 紹介

社会医療法人 農協共済 別府リハビリテーションセンター

回復期リハビリテーション部

部長 伊藤 美津子



当センターは、昭和48年に温泉都市別府の高台に医療と福祉が一体となったりハビリ施設として開設され、現在は、医療・福祉・介護の3方向からのリハビリを総合的に提供する「総合リハビリテーションセンター」として利用者の地域生活へ向けた支援を行っています。

利用者個々に応じたりハビリを医療だけではなく、敷地内の運転コースを利用した自動車訓練や職業訓練など“地域生活へ向けた実践的なりハビリ”を行う障害者支援施設（福祉事業）、“生活期のりハビリ”を行う通所・訪問りハビリ（介護保険事業）、と継続したケアやリハビリが提供できることが特徴です。

病棟は全床（116床）が回復期リハビリテーション病棟で、患者中心のチーム医療を推進するため、平成22年に多職種によるユニットケアを開始しました。

看護師・介護福祉士・セラピストなどの多職種からなる固定チームになったことで、これまで以上に患者中心のケアやリハビリが提供できるようになりました。

その中で看護師は、患者を全人的に捉え全身管理や安全管理はもちろんのこと、患者さんやご家族がこれからの生活を再構築していく支援をしています。一人一人が「リハビリテーション看護師」として成長し、やりがいを感じることができるようになりリハ看護の知識・技術の習得、多職種連携を高めるためのコミュニケーション技術やマネジメント力の向上のための教育や業務改善に取り組んでいます。また、看護が“病院完結”にならないよう入院中の生活環境調査や退院前のケア会議への出席、退院後訪問など“地域完結”の視点を持った看護が提供できるような取り組みも行っています。

急性期病院から転院してきた患者さんが心身ともに安定し意欲的にリハビリに取り組めるための支援ができる看護師であること、患者さんの思いに寄り添うことができる“人”であること、多職種から信頼される看護師であること、を目指し、当センターの基本理念である「すべての人が地域でしあわせに生活できる社会の実現」に向けて今後も頑張っていきたいと思っております。



《敷地内にある運転コース》



《病棟に隣接したりハビリテーション室》



投票結果一覧表

平成 28 年度

NPO 法人日本リハビリテーション看護学会 理事・監事選挙

理事 定数 18 名

No	当選	氏名	所属
1	○	栗生田友子	国立障害者リハビリテーションセンター病院 看護部長
2	○	荒 紀恵子	クラーク病院 看護部長
3	○	荒木 暁子	千葉県千葉リハビリテーションセンター 看護局長
4	○	蟻田富士子	東京都リハビリテーション病院 看護科長補佐
5	○	石川ふみよ	上智大学総合人間科学部看護学科 教授
6	○	板倉 喜子	白山リハビリテーション病院 副院長・看護部長
7	○	上田美代子	森之宮病院 副看護部長
8	○	宇野みどり	伊予病院 看護部長
9	○	金山萬紀子	誠愛リハビリテーション病院 副院長
10	○	熊谷 恒子	東北公済病院 看護部長
11	○	佐々木郁子	神奈川リハビリテーション病院 看護局長
12	○	佐藤 啓子	埼玉県総合リハビリテーションセンター 看護部長

No	当選	氏名	所属
13	○	佐藤 史	湯布院病院 地域医療部連携室 室長・看護師長
14	○	高濱 正子	兵庫県立リハビリテーション中央病院 看護部次長
15	○	中川美都子	富山県高志リハビリテーション病院 看護局長
16	○	原 三紀子	東京女子医科大学看護学部 准教授
17	○	増岡 薫子	広島市立リハビリテーション病院 総看護師長
18	○	山本 恵子	九州看護福祉大学看護福祉学研究科 教授

監事 定数 2 名

No	当選	氏名	所属
1	○	北代 直美	NPO 法人日本リハビリテーション看護学会 監事
2	○	田村 玉美	人間総合科学大学保健医療学部看護学科准教授

NPO 法人日本リハビリテーション看護学会

リハビリテーション関連団体行事予定

- 第42回 日本脳卒中学会学術集会
2017年3月16日～19日（大阪府）
- 第54回 リハビリテーション医学会学術集会
2017年6月8日～10日（岡山県）
- 第10回 日本訪問リハビリテーション協会学術大会
2017年6月3日・4日（北海道）
- 第23回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
2017年9月15日～16日（千葉県）
- リハビリテーション・ケア合同研究大会2017
2017年10月19日～21日（福岡県）
- 第31回 回復期リハビリテーション病棟協会研究大会
2018年2月2日・3日（岩手県）

事務局からのお知らせ

日本リハビリテーション看護学会誌 Vol.7_1

投稿論文受付開始のお知らせ

2017年1月より、第7巻の募集を開始致しました。

受付期間：1月より4月中旬（予定）

学会ホームページに投稿規定、投稿チェックリストを掲載してあります。多くの応募をお待ちしています。

平成29年4月から継続会員・新規入会の手続きを開始します。各施設の担当者の方はよろしくお願ひします。

平成29年3月末日までのブロック別会員数

ブロック	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	合計
継続	98	592	299	482	156	120	334	2,520
新規	16	123	62	99	26	20	93	

編集後記

年度末でお忙しい日々を送られておられると思います。

昨年の学術大会は沖縄で開催され、私は初めて沖縄に行きました。学会の参加は新しい知識や刺激を受けますが、ちょっとだけ観光と美味しいものを食べることも楽しみです。

美ら海水族館に行きましたが、時間がなく同僚の「海ガメみせて～」の声を振り切り水族館を後にしました。沖縄の海に癒され、また学会に参加しようと心あらたに家路につきました。

誠愛リハビリテーション病院 金山萬紀子